

KJS

# 京都社会学年報

第 6 号  
1998年12月

## 《論 文》

- 衝撃と反復  
——フロイト「科学的心理学草稿」による心的外傷の考察—— 岡崎 宏樹
- 大衆のモニュメント  
——「総合芸術作品」としてのナチズム—— 田野 大輔
- 分節する言説  
——江川紹子のオウム論をめぐって—— 野中 亮
- 霊的成長における超越性と共同性の問題  
——アルコール依存症からの回復とAA—— 鎌原 利成
- 若者の地域移動と居住志向  
——生活意識に関する計量分析—— 中山ちなみ
- 多重債務者の救済活動  
——ある「被害者の会」のエスノグラフィー—— 大山 小夜
- カリキュラムにみる初期シカゴ学派  
——1905年から1930年まで—— 高山龍太郎
- 大正期婦人雑誌読者にみる女性的読書形態  
——「主婦之友」にみる読者像—— 石田あゆう
- 近代化の風景  
——環境認識の地域社会学—— 井戸 聡

## 《書評論文》

- 概念としての「自己」  
——自己の社会性の考察に関する2つの視点——  
Ulric Neisser and David Jopling(eds.),  
*The Conceptual Self in Context: Culture, Experience, Self-Understanding* 熊田 知子
- 高等教育の拡大と構造的変容  
Paul Windolf, *Expansion and Structural Change:  
Higher Education in Germany, the United States, and Japan, 1870-1990* 海道 由妃
- 遂行的言語としてのジェンダーと<身体>  
Judith Butler, *Bodies That Matter: On the Discursive Limits of "Sex"* 村田 泰子

[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2.
  - 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。
  - 2) 編集委員会は本研究室の教官および大学院生代表者により構成される。
  - 3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4.
  - 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教官、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。
  - 2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公刊のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7.
  - 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。
  - 2) 執筆要項は別に定める。

## 目次

〈論文〉		
衝撃と反復	岡崎 宏樹	1
——フロイト「科学的心理学草稿」による心的外傷の考察——		
大衆のモニュメント	田野 大輔	23
——「総合芸術作品」としてのナチズム——		
分節する言説	野中 亮	41
——江川紹子のオウム論をめぐって——		
霊的成長における超越性と共同性の問題	鎌原 利成	61
——アルコール依存症からの回復とAA——		
若者の地域移動と居住志向	中山ちなみ	81
——生活意識に関する計量分析——		
多重債務者の救済活動	大山 小夜	113
——ある「被害者の会」のエスノグラフィー——		
カリキュラムにみる初期シカゴ学派	高山龍太郎	139
——1905年から1930年まで——		
大正期婦人雑誌読者にみる女性的読書形態	石田あゆう	163
——『主婦之友』にみる読者像——		
近代化の風景	井戸 聡	181
——環境認識の地域社会学——		

〈書評論文〉

- 概念としての「自己」熊田 知子 201  
——自己の社会性の考察に関する2つの視点——  
Ulric Neisser and David Jopling(eds.),  
*The Conceptual Self in Context : Culture, Experience, Self-Understanding*
- 高等教育の拡大と構造的変容海道 由妃 209  
Paul Windolf, *Expansion and Structural Change:  
Higher Education in Germany, the United States, and Japan, 1870-1990*
- 遂行的言語としてのジェンダーと〈身体〉村田 泰子 213  
Judith Butler, *Bodies That Matter : On the Discursive Limits of 'Sex'*

## <執筆者紹介>(掲載順)

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページをご参照ください。  
アドレスは<http://www.socio.kyoto-u.ac.jp/>です。

岡崎 宏樹 研修員

理論社会学（「交流の共同体と合一の共同体——バタイユとジラルの供犠論の比較から」『ソシオロジ』122号、1995年、「外的な力と内的な力——デュルケームの集合力概念の再検討を通して——」『京都社会学年報』第4号、1996年、「集成的理想とコミュニケーション空間——デュルケームの人格崇拜の議論から——」『京都社会学年報』第5号、1997年、「沸騰する社会と宗教」『人間学命題集』作田啓一・木田元・亀山佳明・矢野智司編、新曜社、1998年）。E-mail: [hiroki@socio.kyoto-u.a.jp](mailto:hiroki@socio.kyoto-u.a.jp)

田野 大輔 研修員

政治社会学・大衆社会論。ナチズムにおける大衆の問題を政治文化論的観点から考察する一方、その理論的枠組の構築をめざす（「第三帝国における『民族共同体』——意味空間の政治文化論的考察」『ソシオロジ』119号、1994年、「〈政治文化論〉の視座——クリフォード・ギアツを中心として」『京都社会学年報』2号、1994年、「〈労働者〉の誕生——ドイツ第三帝国における身体と政治」『ソシオロジ』124号、1995年、「モータリゼーションへの意志——ナチズムにおける自動車と近代性」、『京都社会学年報』5号、1997年）。E-mail: [daisuke@socio.kyoto-u.ac.jp](mailto:daisuke@socio.kyoto-u.ac.jp)

野中 亮 博士後期課程3年次

理論社会学、宗教社会学（「『宗教生活の原初形態』における「俗」の位置——デュルケーム宗教社会学の動学化のために——」『ソシオロジ』第128号 1997年、「災害の集成的記憶——伊勢湾台風の場合——」（共著）『奈良女子大学社会学論集』第4号 1997年、「集成的記憶と個人的記憶——伊勢湾台風をめぐって——」（共著）『奈良女子大学社会学論集』第6号 1999年掲載予定）。E-mail: [ryo@socio.kyoto-u.ac.jp](mailto:ryo@socio.kyoto-u.ac.jp)

鎌原 利成 博士後期課程2年次

臨床社会学、宗教社会学。自虐性、依存症に関する研究、及び、自助グループに関する宗教社会学的研究（『書評』「超越的権威の再生産と暴力——モーリス・ブロックの儀礼的暴力論」『京都社会学年報』第2号、1994年、「自虐と依存から自立へ——近代の強迫的自律のパラドックス」『京都社会学年報』第5号、1997年）。

中山 ちなみ 博士後期課程2年次

生活構造論・地域社会論。人びとの生活をめぐるとさまざまな問題や意識について、社会移動、地域性などの問題とも関連させながら実証分析を行う（「生活研究の社会学的枠組み——生活構造論と生活の概念——」『京都社会学年報』第5号 1997年）E-mail: [nakayama@socio.kyoto-u.ac.jp](mailto:nakayama@socio.kyoto-u.ac.jp)

大山 小夜 博士後期課程2年次・  
日本学術振興会特別  
研究員

逸脱論・家族社会学。現代の信用システムの形成過程及び個人や家族の債務を中心とした問題状況の経験的・理論的研究（「シカゴ社会学の一断面（上）（下）」（共著）京都工芸繊維大学工芸学部研究報告『人文』45号、1997年、46号、1998年、「危機を生きる家族」宝月誠・中野正大編『シカゴ社会学の研究』1997年、「多重債務の構造的背景」『京都社会学年報』5号1997年）。E-mail: [saya@socio.kyoto-u.ac.jp](mailto:saya@socio.kyoto-u.ac.jp)

- |       |           |   |
|-------|-----------|---|
| 高山龍太郎 | 博士後期課程2年次 | 逸脱論・社会問題論。問題状況の中で生活する人々の感覚に根ざした経験的研究・理論構築を目指す（「シカゴ・モノグラフの研究（上）（下）」（共著）京都工芸繊維大学工芸学部研究報告「人文」45号1997年46号1998年、「二〇世紀初頭のシカゴの売春」宝月誠・中野正大編「シカゴ社会学の研究」1997年、「変動期のパーソナリティ形成」【京都社会学年報】5号1997年）。<br>E-mail: takayama@socio.kyoto-u.ac.jp |
| 石田あゆう | 博士後期課程1年次 | 社会意識論。出版研究。近代日本における大衆意識について、とくに生活や女性といった観点から歴史社会的に考察。E-mail: ayuu@socio.kyoto-u.ac.jp   |
| 井戸 聡  | 博士後期課程1年次 | 環境社会学・地域社会論。現代日本の農山村社会における急激な社会変化を、とくに環境をめぐる言説と実践の揺れと葛藤をもとにして考察している（「地域社会の共同性の創出—徳島県の環境問題の経験から—」【ソシオロジ】134号、1999年掲載予定）。E-mail: ido@socio.kyoto-u.ac.jp  |
| 熊田 知子 | 修士課程1年次   | 「自己」の社会学。コミュニケーション論および知識社会的観点からの考察。E-mail: kumata@socio.kyoto-u.ac.jp   |
| 海道 由妃 | 修士課程1年次   | 教育社会学。近代日本の教育、とくに高等教育にかんする歴史社会的な研究。E-mail: kaido@socio.kyoto-u.ac.jp  |
| 村田 泰子 | 修士課程1年次   | 文化社会学・身体論。とくに性や食といった身体性を伴う行為の分析。E-mail: ymurata@socio.kyoto-u.ac.jp   |

## 京都社会学年報 第6号

1998年12月25日発行

編集 京都社会学年報編集委員会  
(編集代表 宝月 誠)

発行 京都大学文学部社会学研究室  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2751・2749 FAX 075-753-2836

製作 (株)北斗プリント社  
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38の2  
TEL 075-791-6125

《 Editorial Regulations 》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2. i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.  
ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.  
iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4. i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.  
ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.  
ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

# Kyoto Journal of Sociology

No.6 December 1998

## ARTICLES

- Shock and Repetition:  
A Reinterpretation of Trauma through Freud's Project for a Scientific Psychology Hiroki OKAZAKI
- Das Monument der Masse:  
Nationalsozialismus als »Gesamtkunstwerk« Daisuke TANO
- The Aum Shinrikyo Affair on Japanese Mass Communication:  
An Analysis on Statements by EGAWA Syoko Ryo NONAKA
- Transcendence and Communitarity in Spiritual Growth:  
Recovery from Alcoholism and AA Toshinari KAMBARA
- Mobility Pattern and the Attitude toward Rural Life:  
Multivariate Analysis of the Consciousness of Japanese Students Chinami NAKAYAMA
- Lending a Hand to Debtors:  
An Ethnography of the Debtors' Self-help Group Saya OYAMA
- The Early Chicago School From the Viewpoint of Curriculum:  
From 1905 to 1930 Ryutaro TAKAYAMA
- The Forms of Women's Reading around Magazines for Women in the Taisho Era Ayuu ISHIDA
- Scenery of Modernization : Regional Sociology of Environmental Cognition Satoshi IDO

## REVIEW ESSAYS

- Ulric Neisser and David Jopling(eds.),  
*The Conceptual Self in Context : Culture, Experience, Self-Understanding* Tomoko KUMATA
- Paul Windolf,  
*Expansion and Structural Change : Higher Education in Germany,  
the United States, and Japan, 1870-1990* Yuki KAIDO
- Judith Butler, *Bodies That Matter : On the Discursive Limits of 'Sex'* Yasuko MURATA